

本レポートは、企業の経営者や個人事業主、経営幹部の方を対象として、目標達成に関する名言について紹介しています。

「目標達成」に関する名言集

- 目標達成のために大切なことは、計画よりできるだけ早く動くこと。
(森川亮の名言)
- 目標達成のうまい人は、人の力を借りるのがうまいんですよ。我が強いと、人の力を借りたくないと思う。自分だけでやろうとする。でも、できない。そこで目標を下げてしまう。
(青木仁志の名言)
- 頑張っても成果が出ないときは、クヨクヨしたっていい。でも、同時に自分がそもそも何をしたかったのか、目標を思い出してほしい。そして、それを紙に書くなり、口にするなり、とにかく言葉にして外に出す。そうすれば、現在の苦労は目標達成までのプロセスに過ぎないとわかるでしょう。
(遠藤功の名言)
- 目標を設定する最大の意味は、その目標を達成することではありません。むしろ、適正水準の目標設定をすることにより、モチベーションを最大にすることの方が重要なのです。適正水準の目標設定が強固なモチベーションを発生させます。
(児玉光雄の名言)
- アメリカに居れば、圧倒的多数を占める現地メンバーや取引先の協力が不可欠であり、それには、自らアメリカ的な発想や、行動をとれることが何よりも大切です。どこへ行っても、現地の人々との関係を結びながら、目標達成のための物語を描ける。それがグローバル人材です。
(御手洗富士夫の名言)
- 目標達成の予定日は、自分のリソースを120%使ってギリギリ到達できる時点に設定します。今日を精一杯生きた場合を100%として、さらに20%の無理をして、到達できる最短の日を締め切りにするわけです。
(渡邊美樹の名言)
- 私たちが目標を達成するには二つしか方法はない。時間を投入して自分で実行するか、他の人に仕事を任せるかのどちらかである。自分で時間を投入する場合は能率を考え、人に任せる場合は効果を考えるべきである。
(スティーブン・コヴィーの名言)
- 自分自身を信じることによって、人は事を成し得る。これは驚くべきことである。
(サム・ウォルトンの名言)

- 行動習慣を続けるだけでは、目標達成に近づきません。振り返りが重要になってきます。
(永谷研一の名言)
- どれだけビジネスで成功しても人間的に成長できなければあまり意味はないでしょう。走り続けるばかりでなく、一日一回立ち止まって自分の心を見つめる余裕を持ってほしい。自分の現在地を確認したら、将来のビジョンを明確に描き、目標達成に向けてひたすら努力を続けてほしい。
(齋藤匡司の名言)
- 仕事は忙しいですが、時間に追われている感覚や焦りはまったくありません。なぜなら、自分と会社の目標が明確で、それに達成するための項目がスケジュールに組み込まれているので、そのとおりにこなしていけば、必ず目標達成に近づけるとわかっているからです。
(海老根智仁の名言)
- 私ができないと思ったら、部下は絶対に目標達成などできません。自分が信じていないものを部下に納得させることはできないからです。そのまた部下も目標達成ができなくなり、組織はどんどん弱体化していきます。
(藤森義明の名言)
- 社長として旗を振っている間は、企業の成長に自身のパワーを集中すべきです。それが、目標達成にむけて会社をがむしゃらに引っ張れなくなったら、速やかにけじめをつけたい。
(石黒和義の名言)
- 「行動力」と言いますが、闇雲に動けばいいのではない。目標達成への成果を出すのが行動です。
(上田準二の名言)
- 目標達成は自分一人だけで行う必要はありません。いったん目標を決めたら、どんなサポートを得られそうか考えてみてください。
(ケリー・マクゴニガルの名言)
- いまでも私が心がけているのは、つねに短期の目標を設定し、それに集中するということ。「10年後や20年後を見据えた長期の目標を持ちなさい」という人もいますが、それだけだと「10年後はこうなりたいが、いまはまだやらなくていいだろう」と思ってしまう。今日の目標や今週の目標といった短期の目標を設定し、それを必ず達成していくという積み重ねによって、モチベーションを高いところで安定させることができるというのが私の考えです。
(有本均の名言)
- 小さな目標達成を重ねていくと、「自分はできるのだ」という気持ちが出てきて、これがさらにモチベーションを高めてくれます。
(和田秀樹の名言)
- 誰でも望む結果は持っているでしょう。しかし、同時に目標達成能力を高めていかなければ、長期的に望む結果を得続けることはできません。多くのタイムマネジメント法は、目標達成能力の重要性をあまり謳っていません。長期的な成果を得るために目標達成能力を高めるには、自分自身を磨き、再新再生し続けなければいけません。
(竹村富士徳の名言)

- 3年後の自分の姿から逆算して、2年後、1年後の自分の姿を具体的にイメージできれば、プロセスも明らかになり、進捗状況も把握できるようになりますから、目標達成確率がグンと上がります。
(近田哲昌の名言)
- 思い込みや常識を排し、数字、ファクト、ロジックによって、目標達成に必要な道筋を考え、仕事を組み立てていく。それが当社の必要としている人材であり、私にとってともに仕事がやりやすい相手でもあります。
(出口治明の名言)
- 誰かに任せるよりも自分でやったほうが速い、という中間管理職は多いと思います。ただ、個人で仕事をさばく能力には限界があります。チーム全体の力を最大限に使ったほうが、結局は目標達成までの時間は短くて済みます。
(小松俊明の名言)
- プレイング・マネジャーでは、管理職としての役割を十分に果たすことができない。個人の目標達成を優先するあまり、本来役割である部下の管理をおろそかにしてしまうからだ。つまり、事実上マネジメントのない営業組織の誕生となる。
(藤本篤志の名言)
- 努力しても目標が成就するとは限りません。しかし、目標が正しく、耐え忍ぶべきときには耐え忍び、打って出るべきときには打って出れば、必ず成就する 때가来ると思います。この「努力」「忍耐」「時」ということがとても大切だと思うのです。目標達成への願いが強ければ強いほど願いは通じるものです。
(鳥羽博道の名言)
- 課題や目標が的確に想定できた時点で、すでに課題解決や目標達成への筋道はできかけています。だからこそ、考えに考え抜いて課題を設定します。たとえば、ひとつの仕事にかかる時間が30時間とすると、そのうち20時間ぐらいは課題設定にかけています。極論を言っているのではありません。入口が間違っていたら、あとはいくらやってもダメなのです。
(伊藤良二の名言)
- 目標達成をプロジェクトとしてとらえると、どのようなプロジェクトも基本的な進め方は同じで「段取り→加工→熟成→評価→仕上げ」というプロセスでゴールに近づいていきます。このうちもっとも重要なプロセスは段取りです。「段取り八分、作業二分」といわれるように、仕事のクオリティは段取りの段階でほぼ決まります。評価や仕上げのプロセスに入ると、改善余地はごくわずかです。目標を達成できるかどうか、段取りの時点で確定すると言っていいでしょう。
(横田尚哉の名言)
- 経営者には基本的に3つの能力が必要です。ひとつは「戦略構築能力」、2つめは「目標達成能力」、3つめは「リーダーシップ」です。
(泉谷直木の名言)

発行：2018年1月

— 以 上 —